

○スミスリンローション [外]

【重要度】 【一般製剤名】フェノトリン phenothrin 【分類】疥癬総合薬剤 [ピレスロイド系]

【単位】〇5% [1本30g]

【常用量】1週間おきに30gを使用し、最低2回塗布

【用法】1週間隔で(少なくとも2回の塗布を行う)、1回1本(30g)を頸部以下(頸部から足底まで)の皮膚に塗布し、塗布後12時間以上経過した後に入浴、シャワー等で洗浄、除去する■2回目塗布以降は1週ごとに検鏡を含めて効果を確認し、再塗布を考慮■洗浄後はオイラックスクリームを塗布してもよい■イベルメクチン(ストロメクトール)を併用してもよい。

【透析患者への投与方法】常用量(1)

【保存期 CKD患者への投与方法】常用量(1)

【特徴】疥癬総合薬で、虫体神経細胞のNa⁺チャネルに作用し、その閉塞を遅らせることにより、反復的な脱分極あるいは神経伝導を遮断することで殺虫作用を示すとされる。ヒゼンダニの卵に対する効果は不明であり、虫体撲滅のためには初回塗布時に存在していると予想される卵が孵化したときに再塗布する必要がある。ヒゼンダニの卵は3~5日で孵化すると言われており、初回塗布時に存在した卵が全て確実に孵化していると考えられることから、1週間後に再塗布する。角化型疥癬及び爪疥癬における有効性及び安全性は確立しておらず、効果が不十分であることも考えられるため内服薬との併用も考慮。

【主な副作用・毒性】皮膚炎、肝機能検査値異常

【吸収】血中に未変化体はごくわずかに検出され、大部分は主代謝物3-PBとして存在(1)

【tmax】24hr [経皮](1)

【代謝】主代謝物3-phenoxybenzoic acid(3-PB)(1) 3-PBは水酸化され抱合されると推測(1)

【排泄】一部尿中に回収される(1)

【t1/2】3-PBは1週間後には血中から消失(1)

【蛋白結合率】未変化体:97%以上、3-PB:99%以上(1)

【MW】350.45

【透析性】資料なし(1) 通常考慮されないが、物性からは透析性は低いと思われる(1)

【O/W係数】脂溶性(1)

【相互作用】CYP誘導能はない(1)

【備考】微黄色~黄褐色の澄明な油状の液。ヒゼンダニは頭部には生息していないため頸部から下に塗布する。

【更新日】20150404

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。